

ATR

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所



Innovative Technology for Human Communication

ともに究め、明日の社会を拓く

情報通信関連分野の先駆的研究と イノベーション創出で課題解決に取り組む



私たちの存在価値

- 研究機関の視点でイノベーションエコシステムの発展に寄与します
- 社会課題に加え、創出型課題に取り組みます
- 先見力と挑戦心をもつ人材を輩出します

※ 創出型課題: 研究者自らが見出し挑戦する課題



私たちの文化

- 他機関との協働や人材交流をオープンに推進します
- 国際的見地で価値を追求します
- けいはんな学研都市の発展に中核的な役割を果たします

ご挨拶



A T R 創設時に着手した機械翻訳、衛星間光通信、ARを使った臨場感通信等の基礎研究は、COVID-19期にニーズと合い30数年を経て商用化されました。COVID-19パンデミック到来で逼塞した社会もようやく啓蟄を迎え、大阪・関西万博も近づいています。

工業化社会の分業にコンプライアンスを加えて最適化した日本社会は、新規事業に投入するリソース不足に陥り、GDP停滞の一因となっています。ロシアのウクライナ侵略で見直されたジーン・シャープの「独裁体制から民主主義へ」は、独裁体制に服従する7つの要因(習慣、無関心、制裁への恐れ、自己利益、支配者との心理的一体感、道徳的義務、不服従への自信のなさ)を指摘しています。最後の3点を付度、ルール偏重、新規事業への自信のなさを読み替えると、そのまま新規事業を阻む我々の弱さ(檻)になります。

我々が自ら作り出した檻の中で従事する既存の「仕事」をAIが代替するのは、時間の問題です。勇気を奮って檻の中から手を差し出し、志ある人たちと手を組んで新しい「仕事」や事業を立ち上げなければなりません。社会を構成する人間に着目し、ICT技術に裏打ちされた行動変革を促してきたATRとしては、それに資する研究開発を目指したい。

今後とも、ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年6月

代表取締役社長 浅見 徹

世界最先端の研究成果の創出と社会への展開により
科学技術イノベーションと地方創生への貢献を目指します



研究成果の事業化

脳情報科学

深層
インタラクション

エコシステム構築

関連会社

Research & Development
研究開発

ATRグループ

Business Development
事業開発

無線・通信

生命科学

ライセンス

「けいはんなATRファンド」
出資企業

事業開発から研究への
フィードバック

外部機関との共創

脳情報科学

脳機能の知見に基づく最新のブレインマシンインターフェース (BMI) を開発し、すべての人が利用できる革新的な技術基盤を確立します。

CNS 脳情報研究所

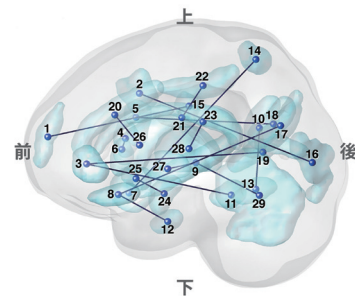
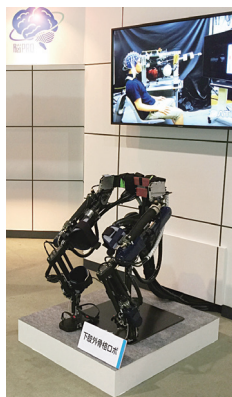
— 計算理論に基づいて脳機能を解明する —

私たちは、計算論的モデリングを通じた脳機能の理解を踏まえた、ブレインマシンインターフェース (BMI) の開発を目指しています。これにより、人工知能の発展や人の運動・認知機能の回復の実現などの臨床応用につながることを期待されます。

CMC 認知機構研究所

— 高次脳機能を解明する —

最先端の脳活動計測法やニューロフィードバックによる脳活動の操作を用いて人間の高次機能を解明し、コミュニケーション支援や使い易いインタフェースの開発をめざしています。



NIA 脳情報解析研究所

— 統計科学、機械学習を用いて脳と人工知能との共創を実現する —

統計科学や機械学習に基づいた脳機能を理解するための手法の開発、それによる脳と人工知能との類似性、相違性の解明、また、脳科学に基づく人工知能の開発を目指しています。

深層インタラクション

ロボットやアバターが共生する快適な百寿社会の実現に向けて、人と人、人とロボット、人とアバターの関わりを深く理解する研究開発に取り組んでいます。



ITB インタラクション技術バンク

— 深層インタラクションの研究成果を社会実装する —

深層インタラクションの研究成果を活用して、人々の暮らしを豊かにするサービスや製品を創出するため、様々な分野の企業と共同研究を行っています。

ISL インタラクション科学研究所

— 人と関わるロボットからインタラクション原理を探る —

人と触れあう距離で動けるロボット、モラルインタラクション、サイバネティックアバターによる社会参加など、ロボットやアバターを用いた認知的インタラクションに関する研究を進めています。

HIL 石黒浩特別研究所

— 人と共生するアンドロイドの研究 —

実社会において人と親和的に関わり、人と共生する自律型対話アンドロイドの研究、ロボットやアバターによって人の活力を高める研究を進めています。

NHL 萩田紀博特別研究所

— 深層インタラクション研究領域の探索 —

異種のロボットや環境知能を連携させるネットワークロボットの研究を多様な分野と融合・発展させた新たな研究領域の可能性を探索しています。

無線・通信

ユーザ中心の視点で、快適で安心な生活を提供する社会基盤としての無線・通信、および電波を利用した先進的アプリケーションの実現をめざしています。

ACR 適応コミュニケーション研究所

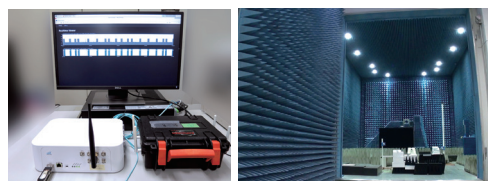
— あらゆる環境に適応し、安全で信頼できる通信の実現 —

生活空間からオフィス・工場に至るあらゆる環境に適応する無線・通信と、プライバシーを守り信頼の基盤を形成する先端セキュリティの研究開発を進めています。

WEL 波動工学研究所

— 電波を活用して豊かな未来を —

ICTからエネルギー分野まで、安心で豊かな未来の実現に向け、電波を活用して快適なサービスを実現する先進技術や新たなアプリケーションの研究開発を行っています。



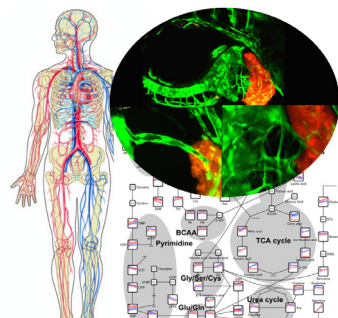
生命科学

器官(臓器)が互いにコミュニケーションを取り合うことで体全体の機能を調整する「多器官連関ネットワーク」に着目し、「生命のからくり」を解き明かす研究を展開しています。

TNSL 佐藤匠徳特別研究所

— 「何時でも何処でもライブリック」の実現をめざして —

持続可能で健康長寿な未来社会の創成をめざし、生物学、医科学、数理科学、工学系科学、計算科学の融合による分野横断型サイエンス: BioMEC-Xを展開しています。



関連会社

2004年以降、ATRの研究成果をベースにした製品・サービスの商品化・販売を目的として設立した様々な事業会社は、ATRグループにおける事業化の核として着実に成果を挙げています。

株式会社ATR-Promotions **ATR-Promotions**

ATRの技術を用いた音声・センサ関連商品の開発、販売、ならびに高度な脳イメージング等の研究支援サービスを展開しています。



ATR Learning Technology 株式会社

ATRの研究から生まれた英語学習支援システム「ATR CALL」の技術と株式会社内田洋行の教育支援ノウハウを融合し、新しい学習の場を創生しています。



*ATR CALLは、ATRの登録商標です。

株式会社ATR-Trek **ATR-TREK**

ATRの音声認識技術と株式会社フットレックの組込みソフト開発技術を融合し、携帯電話等への音声認識・翻訳技術展開を行っています。



エコシステム構築

けいはんな学研都市におけるグローバルイノベーションエコシステム構築に取り組んでいます。

スタートアップ企業支援

日本の大企業等との協働で製品・サービスの実証に取組む国内外のスタートアップ企業を支援するアクセラレーションプログラム「KGAP+」を世界の有力なイノベーション機関と連携して実施しています。国の「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の「グローバル拠点都市」に選定された「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」において、けいはんなは関西のスタートアップ育成拠点として機能しています。

オープンイノベーション推進支援

日本の地域や企業等の課題解決・事業開発プロジェクトをオープンイノベーションで実施するプラットフォーム「KOSAINN」を構築・運営しています。プロジェクトの先駆性・機動性を高める国内外のスタートアップ企業や研究者が参画するチーム組成を行います。政府系機関が参画スタートアップ企業を支援する「KOSAINN+」もカナダ等と実施しています。

KGAP+: Keihanna Global Acceleration Program Plus, KOSAINN: Keihanna Open Global Service Platform for Accelerated Co-Innovation



「けいはんなATRファンド」出資企業

*けいはんな学研都市ATRベンチャー NVCC投資事業有限責任組合

2015年創設の「けいはんなATRファンド*」は、ATRの研究開発と親和性の高いスタートアップ企業へ出資してきました。ATRは出資企業との共同研究開発、研究成果の提供や技術支援を通して成果の事業化促進やスタートアップエコシステムの成長への寄与を目指しています。ATRファンドは出資企業が上場するなど具体的な成果を挙げています。

ブルーイノベーション株式会社



ATRのUNR-PF*を応用したドローン管理プラットフォーム「Blue Earth Platform」を基軸にサービスを展開。*ユビキタスネットワークロボットプラットフォーム

ユカイ工学株式会社



高齢者や家族を見守るコミュニケーションロボットの企画・開発・販売・サービスを提供。ATRのインタラクション技術を用いた高付加価値化に向け連携。

REVISIO株式会社



独自の視覚質計測技術を用いたメディアリサーチ、テレビCM・番組の効果測定分析サービスを提供。ATRとの連携により計測技術の高度化を検討。

ANYCOLOR株式会社



成長著しいVtuberビジネスのリーディングカンパニー。ATRと連携し触覚も含むマルチモダリティの次世代型Vtuberの実現に向けた検討を進める。2022年6月上場。

株式会社XNef



デコーディッドニューロフィードバック(DecNef)法を応用した診断機器・治療機器・ソフトウェアを開発。

アイディア株式会社



エイアイビューライフ株式会社



WaveArrays株式会社



ライセンス

会社設立以来の研究成果を基にした特許等の知的財産のライセンス等により、他企業による新たな価値創造に寄与しています。

Karydo Therapeutix株式会社



佐藤匠徳特別研究所の研究成果を応用した、疾病の早期発見・先制医療に資する、独自のデータサイエンス基盤による創薬・医薬技術を開発・提供。

株式会社テレノイドケア



石黒浩特別研究所が開発した遠隔操作型アンドロイド「テレノイド™」を用いたケアの新しいコミュニケーション・サービスを企画・提供。

株式会社Stroly



ATR発のスタートアップとして、オンライン地図プラットフォーム「Stroly」を企画・開発・運用。

株式会社エーアイ



ATRの「コーパス音声合成」技術に基づく日本語自由文音声合成エンジン「AITalk®」シリーズを開発・販売。

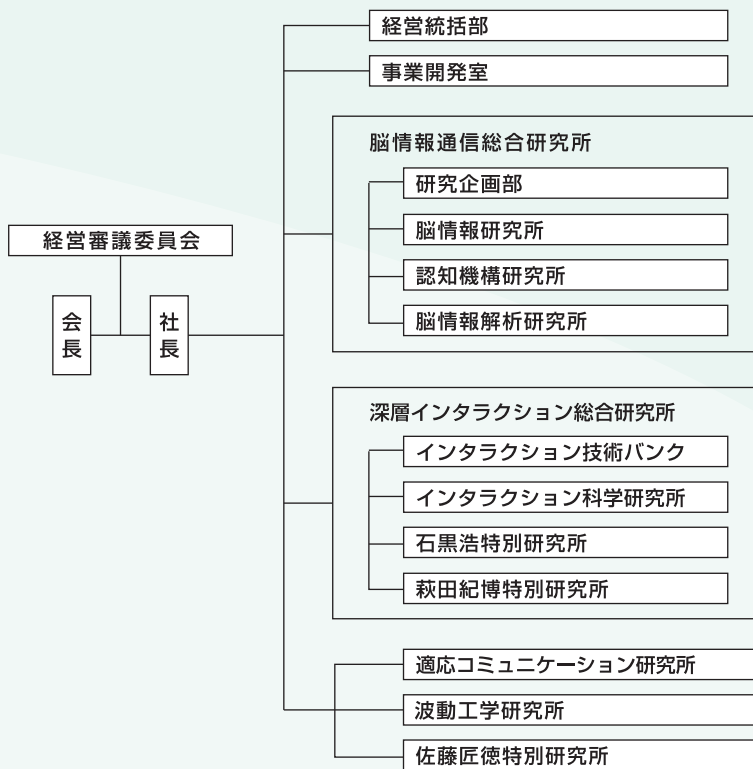
● 会社概要

設立	1986年3月 ATR設立 1989年 現在の地に移転
資本金	1億円(資本剰余金 約219億円)
株主構成	NTT、KDDI 始め111社
所在地	〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2 (けいはんな学研都市)
社員数	244名(再掲:研究者161名) 研究者の内訳:契約研究者 93%、出向者 4%、プロパー 3%、 海外研究者 13%(2023年4月1日現在)

● 主な役員

取締役会長	松本 紘
代表取締役社長	浅見 徹
代表取締役専務	鈴木 博之
取締役相談役	松本 正義

● 組織



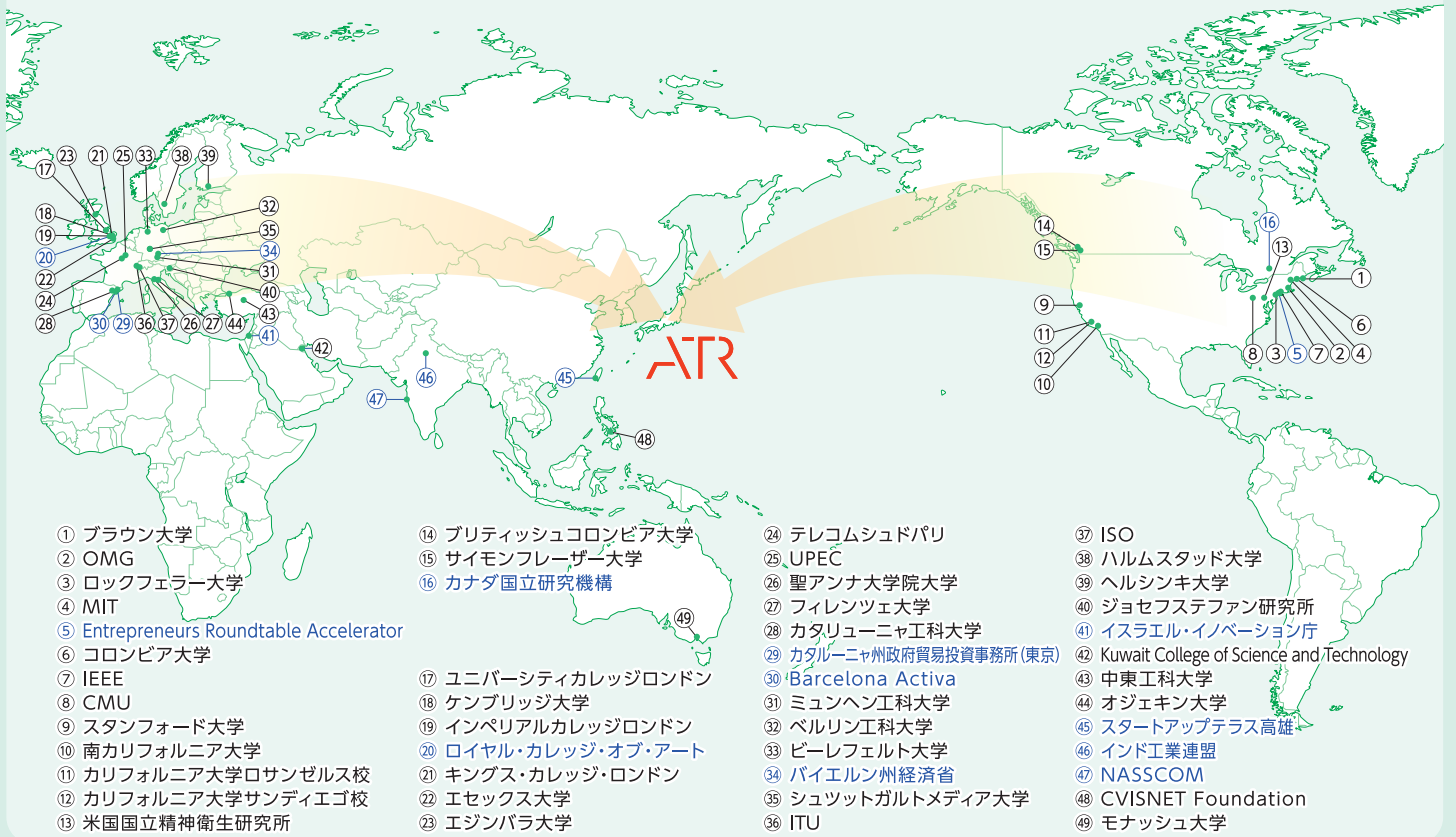
■ ATR 関連会社

- (株) ATR-Promotions
- (株) ATR-Research Partners
- ATR Learning Technology (株)
- (株) ATR-Trek

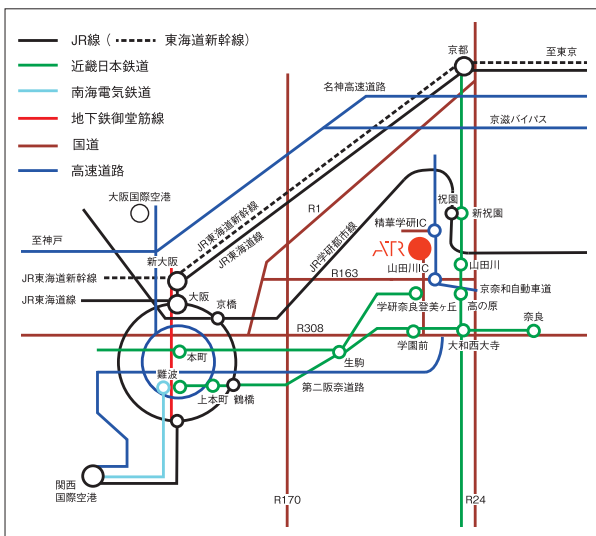
● 会社のあゆみ

1986年 3月	株式会社国際電気通信基礎技術研究所設立
1986年 4月	自動翻訳電話、通信システム、視聴覚機構、光電波通信に関する4研究所設立
1989年 4月	本研究所開所 (けいはんな学研都市最初の研究所)
2001年 10月	ファンディング・スキーム変更 (出資形態から受託研究形態へ)
2004年 11月	研究成果展開のための子会社「(株) ATR-Promotions」設立
2006年 4月	ファンディング・スキーム変更 (マルチ・ファンド方式に移行)
2007年 5月	研究成果展開のための共同出資会社第1号「(株) ATR-Trek」設立
2014年 1月	特別研究所開設 (オープンイノベーションの積極的な推進)
2014年 6月	事業開発室設置
2023年 5月	新たな基本理念策定

● 国際連携ネットワーク



— 交通のご案内 —



近鉄けいはんな線学研奈良登美ヶ丘駅
 ■ 奈良交通バス (約 15分)
 1 番のりば: 56・59 系統「ATR」バス停下車 向い



近鉄京都線新祝園駅・JR 学研都市線祝園駅
 ■ 奈良交通バス (約 15分)
 1 番のりば: 36・46・47・56 系統
 2 番のりば: 58・59 系統「ATR」バス停下車 すぐ

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所

〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2 (けいはんな学研都市)
 TEL : 0774-95-1111 (代) FAX : 0774-95-1108
 URL : <https://www.atr.jp/>

